大阪 OTU 市教組
2024. 9.10　1357 号
発行人：松岡　誠
編集人：田河　真理
発行所　大阪市教職員組合　TEL6942-3561　FAX6943-8039　http://otuosaka.jp

東日本大震災から学ぶフィールドワーク

８月 21 日〜８月 22 日、「東日本大震災から学ぶフィールドワーク」を実施しました。

１日目は、仙台市の荒浜小学校の見学。当初の行程には無かったのですが、参加者全員が個別に見学しました。荒浜小学校を最初に見たとき、改めて津波の怖さに胸が締め付けられました。校舎の２階まで津波が押し寄せ、教職員や子どもたちが屋上に避難したそうです。また、津波によりいろんなものが押し流されたことにより校舎が大きく破壊されていました。

２日目は、石巻市の門脇小学校と大川小学校を見学しました。門脇小学校では、教室の机や椅子をはじめ校舎全体が焼失していました。ガイドの方に話を聞くと、地震により燃えた家屋が津波により押し流され、校舎全体に燃え移ったそうです。大川小学校も津波により、校舎のほとんどの物が押し流され骨組みだけが残っていました。ここでは、多くの教職員や子どもたちが津波により犠牲になりました。

門脇小学校にて説明を受ける参加者

今回のフィールドワークを通して、改めて防災・減災教育の大切さを痛感しました。

・・ 夏休みに学んだ防災と平和 ・・

〜 西部支部学習会 〜

８月２４日、西部支部は「世界を見つめて、平和教育を！」と題して学習会を開催しました。講師にジャーナリストの西谷文和さんを招き、最新のウクライナ情勢、中東情勢について、現地取材から得た貴重な情報を報告していただきました。

戦争は死者だけではなく、その何十倍もの負傷者を出します。戦闘で片足を失い義足になりながらも、リハビリ施設でトレーニングをする兵士の姿は痛々しく、無残に破壊された街の光景や、分断された人々の争いを見るにつけ、一刻も早くこの戦争を終わらせなければならないと感じました。それでも戦争が続くのは、権力者の保身や兵器を作る企業のビジネスになるからであって、どちら側の市民も内心では戦争に反対している人が多いと西谷さんは語っていました。世界の現状に目を向けながら、これからの平和教育を展開していきたいと思いました。（N）

// 南部支部恒例！ わいわいパーティー //

８月 23 日、南部支部毎年恒例のわいわいパーティをあべの楓林閣ビアガーデンで行いました。当日は、雨の心配もなく、気持ちよい気候の中で開催することができました。夏休み最終の金曜日という比較的集まりやすい日程でもあり、開始時間前からたくさんの分会（組合員）のみなさんに集まっていただきました。交流が始まると、夏休み中のことや２学期からのことで会話がはずみました。また、各分会の知り合い同士が一緒になって話をすることで、互いの分会同士での会話となり交流の場が広がっていくのもわいわいパーティのよいところだと思っています。あっという間の３時間、２学期に向けての活力となるパーティなりました。参加いただいたたくさんの分会（組合員）の方々どうもありがとうございました。

市労連が大阪市人事委員会に対して申し入れ！

市労連（市教組・市職・市従・水労・学給労・学職労・公立大で構成）は、９月４日に大阪市人事委員会に対して、2024 年の人事委員会勧告に向けた「第１回申し入れ」を行うとともに、春の段階で提出していた「2024 年統一賃金要求」に対する回答を引き出しました。申し入れの中で市労連は、昇給・昇格を含む人事・給与制度の全般的な改善や総労働時間の短縮について言及を求めるとともに、大都市における職員の生活実態を考慮し、精確な公民水準比較を行った上で勧告するよう要請しました。その上で、本年の勧告に向けた基本的な姿勢、ならびに調査作業の進捗状況と特徴点、現時点で予定している本年の勧告時期について明らかにするよう求めました。

人事委員会からは、「市内の民間企業従業員の給与と本市職員の給与とを均衡させることを基本としつつ、本市の給与制度が、国や他都市の状況、地方公務員法に定められた職務給の原則や均衡の原則といった給与決定の諸原則の観点から、適切なものとなるよう勧告してまいりたい」とし、「全国の状況と比較し、概ね同様の状況が見られる」との回答があり、勧告時期については「例年並みの日程を勘案しつつ努力してまいる」と回答しました。市労連は引き続き、本年の勧告に向けた人事委員会対策を強めます。

９月の組合費の引き落としは

9 月 20 日(金)

※働きがいのある職場を実現するため、なかまの声かけで組合員を増やしましょう！

広報部メモ

給食室にもやっとエアコンの導入が検討されており、施設の調査の連絡が入ってきた。

今年の夏は、気象庁によると、平年と比べて気温が高く、去年と同様の危険な暑さが続いたそうだ。二学期が始まってもまだまだその暑さが続いている。そして、給食もスタートし、給食室は日々危険な暑さと戦っている。衛生管理や出来上がりの時間と温度にも特に気を使う。なので、調査があった学校は、エアコンがつくと喜んでいる。しかし、それよりも前に予定されている講堂や特別教室などの設置がなかなか進んでいない。給食室は施設が古い学校が多くある。本当に設置が可能なのか、いつ頃なのか。とりあえず、来年の夏までには何か進展があればうれしい。（K）

== 文科省 2025 年度概算要求 ==

◇文教関係全体予算

４兆 3,883 億円＋事項要求（前年度当初予算比 8.2%増　3,320 億円増）

〇義務教育費国庫負担金

要求額：１兆 5,807 億円（前年度比 180 億円増）

- 教職員定数の改善　＋170 億円（＋7,653 人）→①
- 教職員定数の自然減等　▲192 億円（▲8,703 人）
- 定年引上げに伴う特例定員の減等　▲29 億円
- 教員の処遇改善　＋232 億円 →②

> 定数改善が自然減を下回り、不満が残る内容

①教職員定数の改善（＋７，６５３人）

基礎定数 3,637 人　＋　加配定数 4,016 人

> 加配定数は恒久的なものではないので、学級数に乗ずる率など基礎定数の基準を改善すべき

基礎定数

- 小学校における 35 人学級の推進　3,086 人
- 通級や日本語指導等のための基礎定数化　551 人

加配定数

- 小学校における教科担任制の拡充　2,160 人
  （学びの質の向上と教師の持ち授業時数の軽減　1,750 人）
  （新規採用教師の持ち授業時数軽減　410 人）
- 生徒指導担当教師の全中学校への配置　1,380 人
- 多様化・複雑化する課題への対応　476 人

> 市教組は一貫して反対してきた。長時間労働の解消にはつながらず、「残業分の給料は出ている」に陥る危険性

②教員の処遇改善（＋２３２億円）

教職の重要性を踏まえた教師の処遇改善

- 教職調整額の改善　４％→13％　…人確法による処遇改善後の優遇分を超える水準

職務や勤務の状況に応じた処遇改善

- 各種手当の改善　学級担任への加算：月額 3,000 円

> 教員間の分断を生む可能性がある

（※これらはまだ国会で法改正されていないので 2026 年１～３月の３か月分を計上）

新たな職の創設（2026 年４月～を予定）

- 教諭と主幹教諭の間に新たな級を創設し、教諭よりも高い処遇とする。

> 東京では２級(教諭)の給料表が引き下げられた

〇その他

- 校内教育支援センター（SSR）支援員の配置　3,000 校【新規】
- GIGA スクール構想支援体制整備事業等　88 億円【新規】
- 学習者用デジタル教科書の導入　19 億円（２億円増）
- 部活動の地域連携や地域スポーツ・文化クラブ活動移行に向けた環境の一体的な整備
  69 億円（37 億円増）

～ 母と女性教職員の会　全国集会 ～

８月２日、日本教育会館で「全国母と女性教職員の会」が開催されました。全体会では、女性を元気にする会のゴージャス理枝さんが「食料支援でつながる困窮世帯！負の連鎖を断ち切り一歩前進!!!」の講演をされました。

児童養護施設を訪れ、冬服が足りないということを聞きつけると、SNS で古着ではなくサイズアウトした服を募って、クリスマスにはゴージャスサンタとしてプレゼントを届ける活動をしたりするところから始められたそうです。特に興味深かったのは、母子支援施設でお母さんたちにメイクをしたことです。すると、気力がなかったお母さんたちが、奇麗になったことで気分が上がり、子どもたちの参観に向かったそうです。

沖縄では３人に１人が貧困なのですが、沖縄に住んでいる人たちはその現状を知らないそうです。ゴージャス理枝さんはそのことを発信し、企業や個人から食料支援をしてもらい、困っている女性たちに配達しています。「食べることは生きること」の言葉のように、食料支援が自立への一歩踏み出すチャンスにつながる取り組みでした。

美しくなること・食べること・夢をもつことなどから、自立へとつなげていく活動に共感し、改めて、自分には何ができるだろうと考える機会になりました。

…E-com おおさか…

９月３日、ＨＲＣビルにて大阪市教育活動ネットワーク「E-com おおさか」の総会が開催されました。「E-com おおさか」は、市教組を含め子どもの教育や生活に携わる市内のさまざまな団体が集まって、大阪市に対して施策の提言を行っています。記念講演では、NPO 法人 FAIR ROAD の粟本正則さんから、「共にケアする地域をつくる ～中学校図書館（サードプレイス）からの発信～」と題して、校内の居場所づくりについて話していただきました。

FAIR ROAD は市内４つの地域、３つの中学校、３つの高校で地元スタッフとともに居場所づくりを行っています。中学校での居場所づくりを始めたきっかけは、高校卒業前に出会っても進路や就職先について支援できないから。中学校で出会えれば、進路や将来について早くから相談でき、何らかの形で関わり続けることができる。図書館でするのは？…タイでの教育支援活動で絵本とソーラーランタン（夜でも読めるように）を届ける「蛍の光プロジェクト」をしている。本を手にした子どもたちの目の輝きから、学ぶ喜びや学びたいという意欲がひしひしと伝わってくる。本は学びの原点と考えている。図書館では選択肢がたくさんある。本を読むもよし、ぼーっとして体を休めるもよし、考え事も。一人ひとりの価値が尊重され、選択の自由が保障される空間。帰宅が遅くなっても「学校にいた」と言い訳ができる。そして中学校では、地域のすべての子どもに出会える（アウトリーチすることができる）。

他人を傷つける以外のルールはない。ルールを作れば違反したときに出禁にしなければならい。立ち上げから必ずザワザワとした期間はあるが、「居場所」として残すために参加者一人ひとりが考えている。そのうちにみんなが輝く瞬間＝居場所として全員が満足している瞬間が必ずやってくるとまとめられました。